



お子つお子できる子

新井小学校たより 6月号

平成30年6月25日

HPアドレス <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/arai-s/>

至れり尽くせりは、主体性を奪う

～「バリア」があるからこそ、乗り越える力が付く～

校長 川住晴彦

妙高市校長会の折に、小林教育長から紹介していただきました。

.....
現在、バリアフリーの環境が広く普及している。(中略) 誰にとっても優しい環境は、「どの人も参加できる」「それによって、いろいろな経験を多くの人に保障できる」という点で、素晴らしいことである。しかし、「そうした環境に慣れることで、幼い時に段差がある場所を経験することが減っている。このことが、子どもにとって思いもよらないけがを生み出している」という話を、何人もの園長先生から伺った。

「バリアフリーで暮らしやすい」とこと、「乳幼児期から、いつもそうした環境で育つのが良い」とことは別物。このような時代だからこそ、ある程度のバリアを自分で足を上げて越えられるようになる経験を通して資質を育てたり、自己防衛能力を育んだりする環境も必要である。(中略)

先日伺った園では、はいはいやよちよち歩きをしている乳児でも、園庭に出て築山に上ったり、畑に入ったりしてもよいことになっていた。目線の低い子どもは、野菜などを何でも手に取り、引っ張ってみる。そうして、ちぎれたネギなどは口に入れたりする。当然、苦くて吐き出すし、きれいなものではない。もちろん、保育者はフォローする。それでも、その体験を通して、子どもは苦みを感じ、次にはしなくなる。

もちろん、危険は除外する必要がある。しかし、苦い体験は、自己防衛スキルを育てる。「生きる力」を育む環境を、体験から考えてみたい。

(「続保育のこころもち」119 東京大学大学院 秋田喜代美教授 2018.6.4 日本教育新聞)



.....
高齢者向けのデイサービス施設「夢のみずうみ村」(山口県)は、段差、坂、階段等日常で遭遇する可能性のあるバリアを意図的に配置した「バリアアリー」施設です。どこにも手すりがあり、段差がない施設は、高齢者が自らががんばって、身体を回復させようとする意欲を奪ってしまうという考え方によるものです。この施設を運営する藤原 茂さんは、「プロフェッショナル 仕事の流儀」でも放映された方で、直接お話を聞かせていただいたことがあります。

介護と教育を一緒にするのは無理があるかも知れませんが、「バリア」があるからこそ、それを乗り越える力を付けることで自立への道が通じているということでは、同じようにも思います。

勉強で問題が分からないとき、着替えや用具の後片付けのとき、子どもが自分なりに悩んだり考えたりしている時、すぐに手出し口出しをしてしまうことは、時として、その子の主体性を奪ってしまいます。もちろん、本当に助けが必要な時は助けなくてはなりません、それも、状態によって、どう支援するのか、教師も親も、そして周りの大人もよく考えなくてはならないなと思いました。適切な(今ある力で乗り越えられる)バリアを乗り越える経験をさせながら、たくましく育てたいものです。

■安全点検のお願い■

大阪北部地震では、ブロック塀が倒れて小学生が亡くなるという痛ましい事故がありました。

みなさんのご家庭でも、ブロック塀、地震によって倒壊する恐れのある建築物や樹木などの点検をお願いいたします。チェックポイントは、国土交通省のホームページなどで公開されています。

<学年の活動紹介>

おおぞら 1年生



「動物さん、かわいいね」

高田農業高校へ動物見学に行きました。牛や豚、山羊などたくさんの動物とふれ合うことができました。高校生から説明を受けながら、愛情をもって動物と接している姿を見ることができました。えさを食べる動物たちの姿を見て、「かわいい」と大喜びでした。慣れてくると、体や頭をなでたり、直接手からえさをあげたりする姿が見られ、たくさんのことに気付くことができました。

つばさ 2年生

「まちたんけん～白山町、学校町方面～」

6月に町探検に行きました。今回は、第三公園、じゃぶじゃぶ公園へ行き、新井中学校付近からFM妙高付近まで歩いて、いろいろなものを見て回りました。たくさんの距離を歩きましたが、子どもたちは公園に行く元気と元気に遊んでおり、体力が付いてきたことを感じました。

前回の町探検と併せて、自分の紹介したいところやお気に入りものをシートにまとめました。今後の授業で、クラスのみんなに発表して、友達の気付きや発見を共有したいと思います。これからも自分たちの周りには様々なもの、お店、場所などを発見する活動を進めていきます。



かがやき 3年生

「あらいの『いいね』を見つけよう」



新井のまちの「いいね」を見付けに外に出ています。ロッテアライリゾートでは、広大な敷地や豪華なホテルに興味してたくさん写真を撮りました。六十朝市では、お店の人やお客さんとの会話がうれしく、そのことを五七五の川柳に表した子どももたくさんいました。PTC活動では、白山町、上町・中町（北国街道）、下町、朝日町のグループに分かれ、たくさんの「いいね」を見付けました。インタビューにも、ドキドキしながら挑戦しました。

教科書展示会のご案内

わくわくランドあらい（2階会議室）を会場に、教科書展示会が開催されています。ご都合を付けて、どうぞ足をお運びください。

期間 6月28日（木）まで 時間 9：30～17：30＊月曜休館日

にじいろ 4年生

「にじいろネイチャー 探検隊」

新井の自然環境を学ぶために、上越森林管理署の方から森林のよさを教わったり万内川砂防公園で生き物を探したりしています。先日、猪野山の黄金清水チャレンジコースに挑戦しました。岩場ではロープを慎重に伝い、友達同士で声を掛け合いました。沢を下ったり登ったりして泥だらけになった子どももいましたが、硬清水にゴールした時の達成感は格別でした。



たいよう 5年生

「ふるさとの食から見つめる 郷土Ara I (愛)」

「妙高市のPRができるような活動がしたい！」子どもたちのそんな思いでスタートした総合的な学習の時間。今年も大黒屋商店さんのご協力のもと、稲作体験活動のスタートとなる田植えを行いました。

機械での田植えを目にしたことはあっても、手作業での田植えは初体験だという子どもたちが多かったようです。スタッフの皆さんから田植えのやり方を詳しく教わり、どんどん上達していきました。「今年の5年生はなかなか手際がいいねえ〜。」というお褒めの言葉もいただきました。頑張った分、泥んこ具合も半端ありませんでした。これからも田んぼに通い、苗の成長を観察したり、田の草取りをしたりして、お米とかかわっていきます。



ひまわり 6年生

「自然の家ではたらく自分」

青少年自然の家で「キャンプ場の清掃」と「プレイホールの下足箱の掃除」を体験してきました。作業前に職員の方から「お客さんが気持ちよく施設を使ってもらえるように」「安全を第一に考えて」「楽しく真剣に」と、仕事のポイントを教えていただきました。また、作業の合間に、野外炊飯のやり方やかまどの使い方などのレクチャーを受けました。フレンドスクールの前に説明をしてもらったことで、子どもたちは必要感をもって学び、具体的に段取りをイメージできたようです。

施設を管理する方々が見えないところで仕事をしてくださっていることを知った子どもたちは、改めて感謝の気持ちを持ち、19日から5日間のフレンドスクールを過ごしたことでしょう。



「自分も相手も大事にする子」をめざして

新井小学校では、『相手の立場を相互に認め合い、よりよい人間関係をつくろうとする子ども』を育てていきたいと考えています。そこで、「我慢する心と力を身に付け、相手や周りの気持ちを考える子」「つらいことや苦しいことに対しても、仲間と支え合い、ねばり強く取り組む子」を目指しています。

“我慢する”という言葉には、様々な意味が含まれていますが、「欲求を抑える、耐える」などの意味を思い浮かべることが多いと思います。このような“我慢”も大事です。アメリカの研究で次のような実験があります。実験者が机の上にマシュマロを置き、「私が部屋に戻るまで食べるのを我慢したら、もう1個あげる」と言って部屋を出ます。そして、我慢できたか否かを調べました。さらに、その後の成績や進学、就職などを追跡調査し、我慢できた子とできなかった子を比較しました。結果は、我慢できた子は自分の夢を叶え、よりよい生活を手に入れた人が多かったということです。この結果が示しているように苦しいことやつらいことがあっても、すぐにあきらめたり逃げ出したりしないで我慢強くがんばり通すことは大切です。もう一方で、“我慢”には、「折り合いをつける」という捉え方があります。自分の考えと相手の考えが異なった時、自分の考えを押し付けたり、異なる考えを排除したりするのではなく、折り合いをつけることで相手の考えも受け入れ、よりよい考えを見付けていくことは、人とうまくかかわっていく上で必要な力です。

そこで、今年も友達と協力したり互いのよさを発揮したりする活動を積極的に取り入れ、自他のよさや違いを認め合い、自分も相手も大事にできる子を目指します。

保護者の皆様からも、お子さんの成長を見守り、応援していただければ幸いです。



＜あいさつ運動＞



＜なかよしはじめまして集会＞



＜ふれあい給食＞

全校SSE～あたたかいメッセージを伝えよう～

5月30日に全校SSE（ソーシャルスキル）を行いました。1回目は「ふわふわ言葉とチクチク言葉」について学習しました。職員の演じる劇を見て、感謝の気持ちを伝えることや相手を励ます言い方について考えました。学習の後、「ふわふわ言葉」や「ふわふわ行動」を集めて、ふわふわの木をつくりました。これからも、あたたかい気持ちがいっぱいの新井小学校を目指していきたいと思ひます。 <ふわふわの木>



＜励ます言い方の劇＞

